

今月の表紙「河原を駆ける」(撮影：日富 國親 様) 第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品



## CONTENTS

- 令和7年度JA熊本県青壮年部大会が開催される
- 木原稔衆議院議員が官房長官に、金子恭之衆議院議員が国土交通大臣に就任
- 藤木しんや活動報告
- 参議院議員 藤木しんや氏コラム
- 参議院議員 東野ひでき氏コラム
- 農政連総支部だより(阿蘇)
- 中央会・連合会からのお知らせ

## あぜみち

7月20日の参議院議員選挙から約3ヶ月で新たな自民党総裁が決定した。

高市早苗自民党総裁(衆議院奈良2区、当選10回、64歳)は、10月21日の首班指名選挙で第104代総理大臣に就任した。

高市首相は、松下政経塾を経て、平成5年の衆議院選挙で初当選。その後当選を重ね令和6年の衆議院選挙で10回目の当選を果たした。この間、自民党政調会長、総務大臣、経済安全保障担当大臣を歴任し、自民党総裁選挙では3度目の挑戦であった。

高市氏は、自民党総裁選立候補に際し、「高市早苗、奈良の女です。大和の国で育ちました」と切り出し、大友家持の「高円の 秋野の上の朝霧に 妻呼ぶ牡鹿 出で立つらむか」と万葉集に収められた和歌を歌い上げた。

演説のさなかに冒頭で突然、歌を口ずさむという展開に、会場はざわめいた。

内閣総理大臣指名選挙を巡っては、これまで自民党と連立を組んできた公明党がここに来て離脱し、少数与党の立場が一段と低下した中で、突如、日本維新の会との連立を発表、総理大臣に選出された。

さて、新しい総理大臣には、食料安全保障に対して、万全な対策と予算の確保をお願いしたい。自民党総裁選では、農業新聞のアンケートで「必要に応じて生産」を主張し、「コメ余りを防ぎ、再生産可能な米価によって営農継続を確保する必要がある」と回答した。米価下落時に農家を救うセーフティーネットの検討も早急に行い、安心して「コメ作り」に取り組めるよう要望する。日本の国土保全の一翼を担っているのは農業者であり、日本国民の胃袋を守っていることをしっかりと認識し、選挙戦で食料自給率を欧米並みに100%に近づけると発言してきたことに尽力していただきたい。

# 令和7年度JA熊本県青壮年部大会が開催される

熊本県農協青壮年部協議会は10月24日、熊本市のくまもと県民交流館パレアで「令和7年度JA熊本県青壮年部大会」を開催しました。

当日は、県下11地区の青壮年部盟友や関係者約300人が出席しました。

開会にあたり、県青壮年部協議会の川田大志郎委員長は、主催者挨拶で「この大会を通して綱領にある盟友の結束力と食と農の価値を高め、明日の担い手を育成する」という言葉のとおり、発表するだけでなく、組織力の強化、組織の活性化につながるよう全力で想いを訴えて下さる」と述べました。

来賓を代表して、JA熊本中央会の宮本隆幸会長は「厳しい農業情勢の中、日本の将来を担う皆様が、将来にわたり夢と希望を持って農業経営に取り組めるよう、営農支援や農政運動を強力に進める。県下盟友の代表者が、今大会、九州大会、更には全国大会で優秀な成績を収められるよう期待する」と祝辞を述べました。



▲主催者挨拶をする熊本県青壮年部協議会の川田大志郎委員長



▲来賓で祝辞を述べるJA熊本中央会の宮本隆幸会長

「盟友の主張発表大会」で最優秀賞を受賞したJA鹿本青年部の上村康矩さんは、「人の行く裏に道あり農の道」と題し、スイカづくりを通じて「地域農業は至」である、そして青年部との出会いで「仲間」という宝に恵まれたこと、協同の精神でどんな困難も乗り越えられること、さらに薄れかけていた「絆」を鹿本青年部大会を開催することで再び強くしたことを発表しました。

「組織活動実績発表」で最優秀賞を受賞したJA鹿本青年部の富岡涼太さんは、「2つの柱をつくる農業の輪、農業の魅力を発信し、活躍できる環境づくりを目指して」と題し、さまざまな課題に対し、行政やJA任せにせず、盟友ひとり一人が活躍し、切磋琢磨できる環境をつくることの大切さを発表しました。

また、「1分間動画発表」ではJA菊池青壮年部菊池支部、「手づくり看板コンクール」ではJAたまな青壮年部玉名支部がそれぞれ最優秀賞を受賞しました。

「盟友の主張」「組織活動実績」の最優秀賞と「1分間動画」の最優秀賞・優秀賞は、

12月に沖縄県で開催されるJA九州沖縄地区青年大会、「手づくり看板コンクール」の受賞作品3点は全国コンクールに、それぞれ県代表として出場・出品されます。

## 【受賞者】

### ●盟友の主張発表

- 最優秀賞 上村康矩さん（鹿本）
- 優秀賞 岩根雄飛さん（菊池）
- 優秀賞 針馬伸弥さん（くま）

### ●組織活動実績発表

- 最優秀賞 富岡涼太さん（鹿本）
- 優秀賞 庄内信二さん（たまな）

### ●手づくり看板コンクール

- 最優秀賞 たまな青壮年部玉名支部
- 優秀賞 熊本市青壮年部天明支部
- 優秀賞 くま青壮年部相良支部

### ●1分間動画発表

- 最優秀賞 菊池青壮年部菊池支部
- 優秀賞 あまくさ青年部天草地区



▲最優秀賞を受賞したJA鹿本青年部の上村康矩さん(写真左)と富岡涼太さん(写真右)

## 木原稔衆議院議員が官房長官に金子恭之衆議院議員が国土交通大臣に就任

高市早苗内閣が10月21日に発足し、熊本県からは、熊本県農政連が推薦し当選した衆議院熊本1区の木原稔氏（元防衛大臣）が官房長官に、衆議院熊本4区の子金子恭之氏（元総務大臣）が国土交通大臣に就任しました。

木原氏は、熊本市出身の56歳。熊本1区で6回の当選を果たしています。

また、金子氏は、あさぎり町出身の64歳。熊本4区で9回の当選を果たしています。

なお、新たな農林水産大臣には、山形県出身でこれまで自民党農林部会長代理や農水副大臣などを歴任してきた鈴木憲和衆議院議員43歳が就任しました。

木原稔官房長官は、「国政全般にわたって高市総理を支えていく。内閣の要として、危機管理、政府のスポークスマン、政府内部や国会との総合調整の役割を着実に果たす」とコメントしました。

また、金子恭之国土交通大臣は、「国交行政は国民生活に密着しており、停滞は許されない。自然災害が頻発している中では事前防災が重要だ。避難路や復旧支援の道路整備を進めたい」と語りました。



▲高市首相と新閣僚(首相官邸提供)

参議院議員

Fujiki Shinya  
activity report

# 藤木しんや

農家の声を  
国政に!



## 活動報告

### 4つのVision

- ① 生産現場からの声を国政に届け、実現します
- ② 食料安全保障の強化の実現を目指します
- ③ 中小・家族経営、中山間地農業への更なる  
理解と支援の拡充に取り組みます
- ④ 地域の拠り所であるJAの取組を後押しします

参議院議員2期目(平成28年7月初当選)  
藤木しんやプロフィール

【自由民主党役職】

農林部会長代理  
食料安全保障強化本部事務局次長  
農林部会 野菜・果樹・畑作物等対策委員長  
農林部会 畜産・酪農対策委員会事務局次長  
参議院自由民主党 政策審議副会長

【参議院所属委員会】

決算委員会 理事  
東日本大震災復興特別委員会 理事  
災害対策特別委員会 理事  
農林水産委員会  
憲法審査会

【これまでの主な役職等】

農林水産大臣政務官(2回)  
自由民主党 農林部会畜産酪農対策委員会事務局長 など



## 農家・農業の未来のため全力で頑張ります



豪雨災害による熊本県海路口排水  
機場視察(8月23日)



豪雨災害に係る石破首相への要請  
(8月28日)



ぐんまの農業を考える集い(9月17日)



JAやつしろ東館トマト選果場竣工式  
(10月1日)



JAかみましき青壮年部嘉島支部による熊本市立  
城東小学校児童の枝豆収穫体験(10月12日)



農業構造転換推進委員会として  
群馬県川場村視察(10月17日)

9～10月に自民党農業構造転換推進委員会関連の会合や現地視察が活発に実施されています。本委員会は、今後の水田政策や米の備蓄および流通等のあり方について議論することを主目的に、9月に新設されました。

9月18日、本委員会および関連会合が開催され、出席しました。会合では、農水省より水稻収穫量調査の見直しおよび生産・流通・消費の実態把握と需給見通しについて説明がありました。私は、「米の需要見通しの数字について、大きな幅を持たせた内容で示されても、現場は非常に困る。不確定要素があるにしても、幅は最小限にとどめるべき。」と意見致しました。

その後、本委員会関連会合が開催され、出席しました。会合では、水稻収穫量調査の精度向上および米の流通構造の透明性の確保のための実態把握の強化について議論が行われました。私は、「作況は、現場で食い違いがあった点だけを改善すれば、廃止までしなくてよかったです。網目の統一化や、網下分がどれだけ主食に回っていたか現場は知らされていなかったが、そういった点の改善をすればよかったです。統計の精度向上には十分な予算と人員確保が必要。流通実態把握は、登録業者からの調査結果が約2割と回収率が悪すぎるのは改善が急務。米屋の廃業は相当あるので、確認と再登録の促進が必要。一定の強制力も必要ではないか。」と意見致しました。

10月10日、本委員会として、新潟県新潟市で現地視察が行われ、参加致しました。視察では、水稻生産の農業法人の圃場を視察した後、生産者・生産者団体と意見交換を行いました。

その後、本委員会関連会合が開催され、出席致しました。会合では、今後の米の備蓄政策について議論が行われました。私は、「備蓄のあり方について、入札備蓄にとどまらず、随意契約備蓄を放出したことで、備蓄制度自体がおかしくなっており、根本的な整理が必要。民間備蓄をするのであれば、民業を圧迫しないような仕組みにする必要がある。周年供給事業は、きちんと残していくべき。」と意見致しました。

10月17日、本委員会として、群馬県川場村で現地視察が行われ、参加致しました。視察では農業法人を視察した後、生産者・生産者団体と意見交換を行いました。

今後、本委員会において、中長期対策として、支援体系も含めた新たな水田政策のあり方等について議論していきます。今後とも精一杯尽力して参ります。



▲10月10日・自民党農業構造転換推進委員会による現地視察(新潟県新潟市)

昨年来の米不足を受け、令和7年度の主食用米の作付けが大幅に増加しました。その結果、戦略作物、とりわけ飼料用米やWCS用稲の作付面積は大幅に減少しています。このしわ寄せが、畜産農家を直撃しており、現場からは悲鳴が聞こえてきています。自民党畜産・酪農対策委員会では、国産飼料の生産・利用拡大のためにはどうすればよいか、実態を把握しつつ、その方策について議論しました。

私からは「今後も安定して飼料作物の生産に取り組めるよう、支援策をしっかり考えるべき。牧草生産の安定生産対策を検討する必要がある。自給飼料が鳥獣害を受けても補償されないが、何らかの検討が必要」と発言いたしました。国産飼料の増産に向け、持続可能な支援策を具体化してまいります。

10月16日に開催されたPTに出席しました。PTでは食育基本法の改正に向け、これまで3回にわたって、必要性や検討の方向性について議論されており、本日はそのとりまとめ案をもとに議論しました。

私からは「すべてのエッセンスが網羅されていると思うが、この内容をどこまで伝えられるかが重要だ。受け身ではなく、なぜ食育や農業が必要かを、自らの言葉で語れる人材育成が必要だ」と

と発言いたしました。

適正な農畜産物の価格形成を実現するためには、消費者の皆さんの理解を得ることが必要不可欠です。しかしながら、現状としてはそうはなっていないかもしれません。消費者の理解醸成と行動変容を実現すべく、全力を尽くしてまいります。

10月19日に開催された「令和7年度JA富山県青壮年部・女性部合同研修会」に出席し、「未来を拓くための農政に！」をテーマに講演させていただきました。

農業・農村を取り巻く情勢が厳しさを増す中、地域を引っ張る青壮年部・女性部組織が交流し、積極的な組織活動を行うことが重要だと改めて感じました。



▲10月16日自民党PTで食農教育の重要性について発言

# 阿蘇総支部だより

県下には十一の総支部がありこの活動状況を毎月順次紹介していきます。

今回は、「農政連阿蘇総支部」（原山真雄総支部長・JA阿蘇組合長、齋藤博満事務局長・JA阿蘇営農部長）を紹介します。

## ●青壮年部の声を直接農政へ

JA阿蘇青壮年部は令和7年2月26日に予てより交流のある北海道のJA上川地区青年部協議会と両地域選出の国会議員へ、農業経営における課題に対する要請書を提出しました。

昨今の農業情勢が地域農業の経営を圧迫していることや、お互いの地理的条件の違いにより通年的な農畜産物の安定供給の他、災害や異常気象における各地での不作を補い合う事が出来ることから今回の要請活動が実現しました。



▲東国幹財務大臣政務官(衆・北海道一区)へ要請書を提出

当日は、米など農畜産物の適正な価格転嫁や消費者意識の醸成について強く要望しました。

また、円安における資材高騰対策の他、担い手対策、地域の維持など様々な課題に対して青年農業者の声を届けました。

JA阿蘇青壮年部の北野暁之前部長は「米の価格が高騰し消費者に影響が



▲坂本哲志議員と藤木しんや議員へ要請書を提出

出ているのは理解している。ただ、一度農業者の目線に立っていただき、農業者の苦勞や店頭に並ぶまでの経緯を消費者の方々にも理解していただきたい。」と話しました。

### 【要請の主な内容】

- ① 資材高騰対策
- ② 適切な価格転嫁 消費者意識の醸成について
- ③ 担い手対策 地域の維持

### 今回の要請書提出先は以下の通り

衆議院議員 坂本哲志(熊本県)  
衆議院議員 東 国幹(北海道)  
参議院議員 藤木真也(熊本県)

### ●参議院選挙で東野ひでき氏を応援

今年の参議院選挙においては、全国農政連と熊本県農政連が全国比例代表として推薦した東野ひでき氏を阿蘇総支部として応援しました。

昨年9月の県農協青壮年部協議会が実施した「東野ひでき支援拡大キャラバン」を皮切りに、青壮年部、女性部、役員総力で支援しました。

東野ひでき氏は農家出身であり、全国のJAを訪問し、生の声を聴き農家の置かれている厳しい状況も理解されています。是非、農家の声を国政へ届けたいと思います。



▲東野ひでき氏の支援拡大キャラバンの様子

# 10・11月は国産産月間です！

「国産産月」とは、「国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産する」という意味で、この「国産産月」をより多くの人に知っていただくため、全国農業協同組合中央会（JA全中）は、「世界食料デー」に合わせて10月16日を「国産産の日」と制定しました。また、10月・11月を国産産月間と位置づけています。

現在の日本の食料自給率は、カロリーベースで38%と約6割を輸入に頼っており、農家の減少や高齢化などにより、食料を生産する力が弱まっています。

JAグループでは今年も国産産月間の期間中、「実りの秋！国産産月JA直売所キャンペーン2025」を実施しています。11月30日（日）までの期間、全国各地にあるJA直売所に2回以上来店いただき、スマホでスタンプを集めて応募すると47都道府県とっておきの国産の農畜産物・加工品が抽選で総勢14,100名様に当たるキャンペーンです！

JA直売所を選んだ旬の国産食材をおいしく味わいながら、みんなで「国産産月」を実践していただきたいと考えます。

日本の食材を未来につなぐため、国産食材をもう一品取り入れて「国産産月」を実践しましょう！

自給力アップで、いざというとき安心!

日本の農業を食べて応援できる!

おいしくて安全・安心な食事を表現!

輸送で出るCO<sub>2</sub>を減らし、SDGsに貢献!



JAグループ熊本  
国産産月ページ



※出典「農業物価統計（令和2年基準）（農林水産省）の肥料および飼料の価格指数より」

## JA経済連

### 令和7年産秋冬野菜・果実出荷大会 持続可能な農業をオール熊本で販売目標金額375億円目指す

JA熊本経済連は10月9日、熊本市で令和7年産秋冬野菜・果実出荷大会を開きました。生産者、JA、行政、全国の取引市場などからおよそ270人が出席。産地と市場が一体となり販売目標金額375億円（野菜類265億円、果実類110億円）の達成を誓いました。全国に向け、熊本県産秋冬野菜と果実の出荷が本格的に始まります。

同連は基本方針に①環境変化に対応する産地体制、②県域一体となった円滑な販売、③多様な販促活動とPRの3つを掲げ、消費者に支持される熊本ブランドの確立に向けて取り組みます。販促活動の一つとして取り組んでいる「冬土用末の日」では、熊本県とも連携し、食べると縁起が良いとされる赤い食べ物での消費拡大PRに力を入れます。

同連の丁道夫会長はあいさつで「消費者に喜ばれる、野菜や果実の安定供給に努め、オール熊本として更なる販売力の強化を図っていききたい」と決意を述べました。

令和7年産（10月～2月）の生産計画は、野菜全般の作付面積2,311ヘクタール（前年比98%）、出荷数量6万7,415トン（同99%）を見込みます。主要品目では、トマトの作付面積は減少していますが、ミニトマト



▲大会で挨拶をする丁道夫会長

トやなす、きゅうりは品目転換などにより増加しています。瓜類では129ヘクタール（同91%）、2,638トン（同93%）を計画。すいか類は39ヘクタール（同89%）となっており、猛暑や高齢化の影響で大玉、小玉ともに面積が減少しています。イチゴ（10月～6月）は156ヘクタール（同97%）、6,313トン（同105%）を見込みます。作付面積は微減傾向が続いていますが、令和7年産で誕生から10年を迎える熊本県オリジナル品種の「ゆづべ」が全体の約62%を占め、そのシェア率が高まっています。

## 令和7年度 JA共済 全国小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクール

### 熊本県大会入賞者決定！

★今年も素晴らしい作品が多く寄せられました★

令和7年度全国小・中学生書道・交通安全ポスターコンクールは、今年で書道の部が69回目、交通安全ポスターの部が54回目を迎え、熊本県下の小・中学生のみなさんから、書道の部で24、581点、ポスターの部で1、292点の素晴らしい作品が寄せられました。

#### 熊本県知事賞【半紙の部】



▶八代市立太田郷小学校6年  
澤田 明依さん

#### 熊本県知事賞【条幅の部】



▶私立熊本マリス卜学園中学校1年 吉本 七晴さん

9月25日に行われた審査会において、左記の3名が見事最高位の熊本県知事賞に輝きました。また、金賞作品27点は11月に行われる全国大会に出展されます。熊本県の作品が全国大会においても入賞されるよう願っています。そして、来年も素敵な作品をお待ちしております。

#### 熊本県知事賞【交通安全ポスターの部】



▶菊陽町立武蔵ヶ丘中学校2年  
古賀 夕渚さん

## 肺炎とは

肺炎は、気道を通じて侵入した病原体が肺内で増殖し、肺に炎症を引き起こす状態を指します。主に細菌やウイルスが原因で発症し、特に高齢者や免疫力が低下している人に多く見られます。症状は、38℃以上の発熱や強いせきが3〜4日以上続き、黄色や緑色のうみのような痰も出ます。これらの症状に加えて、息苦しさや胸の痛みなどが起こります。日本では、肺炎は死亡原因の第5位に位置しており、特に高齢者の肺炎が増加しています。

### 肺炎とかぜ・インフルエンザの違い

#### 【肺炎】

肺そのものにウイルスや細菌が感染し炎症を起こします。

#### 【かぜ】

ウイルスは鼻やのどに感染します。

#### 【インフルエンザ】

ウイルスは鼻や喉に加え、気管や気管支に感染します。

### 肺炎予防のためにできること

肺炎にかかりやすい傾向にあるのは、体力や免疫力が落ちてきている人です。病気になるにくい、免疫力の高い体を作ることが肺炎の予防につながります。また、感染性肺炎の病原体の侵入を防ぐには、手洗い、うがい効果的

です。大切なのは、肺炎の原因となる細菌やウイルスが、からだに入り込まないようにすることです。そのために、高齢者（65歳以上）が肺炎を防ぐ方法として、「成人用肺炎球菌ワクチン」の接種があります。インフルエンザや新型コロナウイルスが原因で肺炎にかかる人も多いことから、それらに対するワクチンの予防接種も肺炎予防になります。かぜやインフルエンザにかかってしばらくの間は肺炎を起こしやすい状態になっています。異変を感じたら早めに医療機関を受診してください。

厚生連診療所では、成人用肺炎球菌ワクチン、インフルエンザの予防接種、新型コロナウイルスの接種が出来ます。お気軽にお問い合わせください。



